



# 緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2020.11.2

## 自分を律する力

先日、今年度より小規模特認校制度で新宮小・中学校に通っている子の保護者の方から次のようなお話を聞きました。

以前は、朝の身支度など、時間までに準備ができないことがあって、親が注意していた。しかし最近では、親が言わなくても自分で時間を見ながら行動できるようになって、注意することがなくなってきた。新宮小・中学校は、小学校と中学校で授業時間が違う（小学校は45分授業、中学校は50分授業）ので、チャイムを鳴らさずに学校生活を送っている。そんな生活の中で、自然と自分で時間を見ながら行動する力がついているのだと感じた。成長を確かに感じ取ることができている。というようなお話です。

9月のPTA専門部会全体会のごあいさつの中でもお話ししましたが、私も同じように感じたことがあります。運動会練習で毎回感心した事です。小中合わせての全校練習の時間には、体操服の着替えが済んだ児童生徒から運動場に三々五々集まってきます。まだ休み時間ですから、楽しそうに会話したり、遊んだりしている児童生徒も、もちろんいます。ですが、授業開始時間に向けて自然にジワジワっと隊列が整ってきて、話し声も少しずつおさまってきて、時間前には集合隊形に整列し、前を向いて静かに待っているのです。その間、教師や中学生のリーダーが、大きな声を出すこともありません。誰かの指示があるわけではないのに、当たり前のように、自然とできている姿に感動しました。これは、中学生の集団でもなかなかできることではありません。個人と集団に力がついている証拠です。子どもたちに自覚はないかもしれませんが、これができることはすごいことだと思います。義務教育の目的は、立派な社会人として自立できる人間を育てることだと思っています。時間を見て、自分を律して生活することはその基本の一つです。チャイムが鳴らないのはそれを意図して決めたことではなかったかもしれませんが、新宮小・中学校の中で子どもたちが力をつけることができていると思います。

先日、小規模特認校制度による入学を検討している児童・生徒・保護者を対象とした公開授業を行いました。保護者も併せて100名ほどの参加者がありました。参加者には、今後の学校教育の参考のために感想を書いていただきました。感想を読んでもみると、「一人一人」という言葉と、「生き生き」という言葉を何人も書かれていました。「一人一人を大切にしたい教育を行いながら、小学生は生き生きと楽しそうに学習を行っている。中学生はしっかりと落ち着いて学習を深めている。」という感想を多くの方が抱かれたようです。あわせて、図工・美術作品も、多くの方がほめてくださっていました。